※本文中の(　)内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願者数が多い大学

□志願者数５万人以上の大学は13大学で前年度と同じ

順位	大学	志願者数		増減数	志願者指数
		2023年度	2022年度		
1	近畿大	**152,191**	157,194	−5,003	97
2	千葉工業大	**145,128**	139,074	+6,054	104
3	明治大	**108,042**	102,426	+5,616	105
4	法政大	**99,051**	108,343	−9,292	91
5	日本大	**98,506**	93,770	+4,736	105
6	立命館大	**91,382**	88,335	+3,047	103
7	早稲田大	**90,879**	93,843	−2,964	97
8	東洋大	**87,094**	98,276	−11,182	89
9	関西大	**77,699**	79,184	−1,485	98
10	中央大	**67,786**	64,795	+2,991	105
11	龍谷大	**61,083**	55,880	+5,203	109
12	立教大	**58,208**	62,646	−4,438	93
13	東京理科大	**50,698**	53,752	−3,054	94
14	同志社大	**49,972**	45,854	+4,118	109
15	専修大	**44,918**	46,547	−1,629	97
16	青山学院大	**43,948**	47,839	−3,891	92
17	関西学院大	**43,737**	38,737	+5,000	113
18	福岡大	**41,785**	44,719	−2,934	93

左表は、私立大519大学の一般選抜の志願者数が確定した大学のうち、大学全体の志願者数が４万人以上の大学をまとめたものです。

この中で2023年度の志願者数が５万人以上の大学は13大学で、全て前年度と同じ大学でした。13大学中６大学が増加、そのうち2022年度から２年連続志願者数が増加したのは千葉工業大、明治大、立命館大の３大学のみでした。

志願者数10万人以上の大学は３大学で、前年度の４大学から１大学減少しました。

志願者数が最も多かった近畿大(97)は、前年度は情報学部新設などにより大幅増加した反動でやや減少しましたが、大学全体の志願者数は前年度に引き続き15万人を上回り、10年連続全国最多でした。

第２位の千葉工業大(104)は、理・工系への高い人気に加えて、2021年度入試で導入した、コロナ禍による厳しい経済環境への対策としての共通テスト利用方式の検定料減免を継続、さらに新規実施の<一般・ＳＢ日程>の志願者数が約６千人に達したことで、大学全体の志願者数は６年連続増加、３年連続増加数全国最多、４年連続 10万人を上回り、過去最多の14万人台になりました。

第３位の明治大(105)はやや増加に留まりましたが２年連続増加で、大学全体の志願者数も２年連続で10万人を上回りました。第４位の法政大(91)は前年度の共通テスト平均点大幅ダウンによる一般方式への駆け込み的な出願で大幅増加した反動から減少しました。第５位の日本大(105)は、大学を取り巻く厳しい環境が薄れたことに加えて、２年連続減少の反動で、志願者数はやや増加しましたが、10万人にはわずかに達しませんでした。

第６位の立命館大(103)はやや増加ですが２年連続増加です。第７位の早稲田大(97)はやや減少で、大学全体の志願者数は３年連続で10万人を下回りました。第８位の東洋大(89)は、前年度増加の反動で減少し、志願者数減少数は全国最多です。第９位の関西大(98)は微減ですが４年連続減少しました。第10位の中央大(105)は法の都心へのキャンパス移転効果もあってやや増加で４年ぶりに増加しました。

第11位以下で増加が目立った大学に触れます。第11位の龍谷大(109)は１日の試験での併願数を拡大したことで増加し、志願者数は６万人を上回りました。第14位の同志社大(109)は共通テストの難易変化への不安から難関国立大志願者から併願先として狙われ２年連続増加しました。第17位の関西学院大(113)は共通テスト利用方式の必須科目見直しの効果などもあって、３年連続増加で５年ぶりに志願者数は４万人を上回りました。